

2020年6月

【月報】

## 飼料イネとしての「やまだわら」の生育調査を実施

現在、京都府における飼料用米生産は、水田を有効活用する手段として定着しています。収穫量が多いことから京都府で飼料用イネ専用品種として認められている主食用品種「あきだわら」が全体の51.6%を占め、主力となっていますが、近年、自然災害等で種子が入手困難になり「あきだわら」に代わる品種が求められています。

そこで、熟期や収穫量、他府県の栽培実績から、次期候補として主食用品種「や

まだわら」を選定し、今年度から中丹西農業改良普及センター、畜産課と協力して、福知山市の農家で試験栽培を実施しています。5月7日に移植、移植後30日目と50日目に生育調査を行ったところ、草丈、茎数、葉色とも初期成育としては順調でした。今後も引き続き調査を実施し、栽培特性を把握した上で、普及につなげたいと考えています。

畜産センター



生育調査の様子

## 【管内情報】

### 乳用後継牛の体型測定による発育調査を実施

京都府では、全農\*京都府本部と協力し、府内の生乳生産量確保と酪農家の労働負担軽減を目的とした、将来の搾乳牛を育成する事業を令和元年4月から実施しています。

6月9日には全農、中丹家畜保健衛生所等とともに、全農哺育センターで飼養する3～12か月齢の53頭の体型測定を実施し、発育状況の確認を行いました。

発育状況はとりまとめの上、子牛を預託する酪農家にフィードバックすることとしています。

当センターでは、引き続き、関係機関

と連携し、府内酪農家をサポートしていきます。

※全農：全国農業協同組合連合会



体型測定により発育状況を確認

畜産センター

### 飼料用スーダングラスの播種が終了

当センターでは、飼育する乳牛50頭の飼料となる牧草（スーダングラス、イタリアンライグラス）を8.5haのほ場に作付けしています。

例年、夏作はトウモロコシを作付けしていますが野生鳥獣の食害が多いことから、今年度は全ほ場にスーダングラスを作付けすることとし、6月23日に播種を終了しました。

刈取りは7月中旬頃から開始することとしており、約160tの収穫量を予定しています。

刈り取った牧草は約300kgのロール状にまとめてフィルムでラップをし、発酵飼料（サイレージ）として調製を行い、今冬から乳用牛の飼料として給与していきます。



土作り後に耕起



トラクターでスーダングラスの種子を播種

## 異常産から胎子を守るためワクチン接種を実施

牛の流産や奇形等の異常産の原因となるウイルス病は、蚊などの吸血昆虫が原因ウイルスを媒介することにより引き起こされます。

当センターでは、これらの伝染病から乳牛の胎子を守るため、吸血昆虫が活動する夏季の前にワクチン接種を行いました。

今後も万全な衛生対策を実施し、優良な改良基礎牛の増産に努めていきます。



来春までに妊娠、分娩予定の全頭にワクチンを接種

畜産センター

## 畜産人材育成研修生が肉用牛実習を開始

本年4月にスタートした畜産人材育成研修の第1期生が、6月1日から当場における肉用牛主体の研修に入り、肉用子牛や成牛の飼養管理、繁殖管理、健康観察などに取り組んでいます。

研修生は、将来、丹後地域での肉用繁殖経営を目指しており、日々の研修に熱心に取り組み、就農に向けて励んでいます。

す。

当場での研修は9月3日までを予定しており、今後は、家畜人工受精師講習会への参加など、更なる技術向上を図り、就農へ向けた経営方針や規模など具体的な構想がもてるよう関係機関や団体と連携して取り組んでいます。



子牛飼料給与



子牛ほ乳



講義



発情観察

碓高原牧場